

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月14日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0174100461		
法人名	特定非営利活動法人 わたぼうしの家		
事業所名	グループホーム さんぼみち		
所在地	北海道釧路市千歳町13番7号 (電話) 0154-44-1123		
評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成20年3月12日	評価確定日	平成20年3月20日

## 【情報提供票より】(平成20年2月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年4月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	14人	常勤	7人, 非常勤 7人, 常勤換算 7人

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000円	その他の経費(月額)	20,000円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

### (4) 利用者の概要(2月25日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	0名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2			
年齢	平均 84.2歳	最低	77歳	最高	95歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	ふくしま医院 ふくしま歯科医院 清水桜ヶ丘病院
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

釧路市受託事業の「家族介護教室」「やすらぎ支援事業」で家族介護者の支援や高齢者を地域の仲間を支え暮らしていく支援が行われ、他に例を見ない市と連携した地域に密着した活動に取り組んでいます。また、「地域交流会」の開催で地域のネットワークを作り上げ交流を拡げたり、小学校の児童との運動会や餅つきなどの相互訪問も行われホームの持つ機能が地域に還元され認知症に対する理解や啓発にも取り組んでいます。職員との四つの約束「走らない、大声をださない、腰をおとす、言葉に気をつけよう」があり「利用者の普通の家がここにあるので生活を脅かさない」ケアの実践行われ、北海道を代表するグループホームのひとつです。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では、特段の改善点はありませんでしたが、毎日利用者が出かけていた生活協同組合の閉店や交流を深めていたホームのすぐ前の小学校の統合によりなくなるため、次年度の取り組みの課題として職員間で話し合われています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を良く理解しており、業務の見直しやケアサービスを振り返る機会として捉えています。また、自己評価及び外部評価の結果については運営推進会議や家族会にその内容について報告されています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、評価日現在3回実施され、その議題は認知症についての理解と協力の説明 各委員より認知症について意見交換 警察より防犯についての意見等 津波等の緊急時の対応について等。また、日常的に行政、包括支援センター、近隣住民や地域の人達との連携した「老いても安心してすむことができる地域、共に支えあい、安心して老いられる地域づくり」の基本理念の実践が行われています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族会との意見交換や月初に通信「さんぼみち」が発行され、ホーム内の取り組みの変化や利用者の行事参加の様子や子供達や地域の人達との交流の様子、職員の紹介記事が分かりやすく掲載され、家族との信頼関係がはかられています。また、健康状態や状態変化についても来訪時に報告されて、意見や不安などへの対応も行われています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 釧路市の「家族介護教室」や「やすらぎ支援事業」を受託して、家族介護者の支援や高齢者が地域の中で安心して暮らしていける支援が行われています。また、小学生との交流や福祉専門学校生などのボランティアや同業者の実習生の受け入れなど地域との交流や地域のケアサービスの質の向上への取り組みが積極的に行われています。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の基本理念として「老いても安心して暮ることができる地域、共に支えあい、安心して老られる地域づくり」を平成12年6月法人設立と共に掲げられている。		特筆すべき点として、「家族介護教室」「やすらぎ支援事業」「地域食堂」「地域交流会」の地域に密着した活動が既に実践されている。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	さんぼみち理念「共同生活を営む一人ひとりの尊厳を守り、より豊かな人生を送っていただく」を職員間で共有して、その実践に向けて日々取り組んでいる。		特筆すべき点として、理念達成のために職員との四つの約束「走らない、大声をださない、腰をおとす、言葉に気をつけよう」があり「利用者の普通の家がここにあるので生活を脅かさない」ケアの実践が行われている。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	釧路市の「家族介護教室」や「やすらぎ支援事業」を受託して、家族介護者の支援や高齢者が地域の中で安心して暮らしていける支援が行われています。また、福祉専門学校生などのボランティアや実習生の受け入れなど地域との交流や地域のケアサービスの質の向上への取り組みも行われています。		特筆すべき点として、法人で「地域食堂」や「地域交流会」も取り組まれ高齢者の交流できるネットワークづくりも行われています。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を良く理解しており、業務の見直しやケアサービスを振り返る機会として捉えています。また、自己評価及び外部評価の結果については運営推進会議や家族会にその内容について報告されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については評価日現在3回開催されている。委員は家族、町内会3役員、地域包括支援センター、民生委員・児童委員、警察職員、消防職員、管理者及び職員で構成され具体的な活動に取り組んでいる。		運営推進会議の議事録が残されているのは3回ですが、今後は実質的な運営推進会議が他にも行われているので議事録を漏れなく残されることを期待しております。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	釧路市受託事業の「家族介護教室」「やすらぎ支援事業」で家族介護者の支援や高齢者を地域の仲間で支え暮らしていく支援が行われ、他に例を見ない市と連携した地域に密着した活動に取り組んでいます。		特筆すべき点として、国、北海道、釧路市と共にケアサービスの質の向上に取り組むための意見交換や現地評価が行われています。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会との意見交換や月初に通信「さんぼみち」が発行され、ホーム内の取り組みの変化や利用者の行事参加の様子や子供達や地域の人達との交流の様子、職員の紹介記事が分かりやすく掲載されています。また、金銭管理についても報告されています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会との意見交換や運営推進会議でのホームの活動の報告や運営についての話し合いなど日常的に対応が行われています。また、健康状態や状態変化についても来訪時に報告されて、意見や不安などへの対応も行われています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職や異動は少ない。また、毎月発行される通信「さんぼみち」で職員の顔写真付きで紹介記事が掲載されています。さらに、職員の資格取得やスキルアップのための取り組みの支援を積極的に行い、離職などで利用者に影響を与えないように配慮する取り組みをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修参加が実施され、職員のスキルアップのための資格取得や自己啓発の機会を奨励して支援されている。職員との四つの約束「走らない、大声をださない、腰をおとす、言葉に気をつけよう」があり「利用者の普通の家がここがあるので生活を脅かさない」ケアの実践が行われている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム長は、グループホーム連絡協議会の講師を努めるなど地域のケアサービスの質の向上に取り組んでいる。また、職員も交換研修参加やCPD（自己啓発）に取り組んでいると共に同業他施設の職員を実習に受け入れるなど北海道を代表するグループホームのひとつです。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム長はじめ管理者及び職員のスキルは高く利用者の尊厳を尊重した取り組みをしている姿が印象的でした。また、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫して、信頼関係が厚いことが確認されました。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の思いや意向を把握する取り組みや利用者の過去の大事な出来事や生活歴を把握するなど、職員は本人と家族のように行動し、感情を共感し、支えあう関係構築に努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	利用者一人ひとりの思いや意向の把握に取り組んでいる。また、短歌や餅つき、料理の準備、お茶だし、小学校の運動会や卒業式への参加など本人の希望や意向を尊重した取り組みがされている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	介護支援専門員の適切な監理のもとに、介護計画は作成されて利用者、家族の希望や医師からの助言、職員からの意見を取り入れ具体的にになっている。また、センター方式が職員に浸透している。		特筆すべき点として、介護計画は、P(計画)-D(実行)-C(検証)-A(改善)サイクルが確立され、すべての記録が連動し、システム化されケアに活かされている。
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	介護支援専門員が中心となって、3ヵ月に一度介護計画が見直されている。また、状態変化の際など随時見直され、現状に即した介護計画となっている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	日々変化する利用者の状況に応じて医療連携体制が活かされている。また、本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、通院や往診など種々の要望にも対応されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	利用者をよく知るかかりつけ医や訪問看護師との連携で気軽に相談できる医師・看護師が確保されている。また、往診など適切な医療が受けられるよう支援されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、方針が明確化され本人・家族の意志が確認され、職員間で共有されている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮したケアが実践されている。また、記録等の個人情報については、法令遵守の取り扱いをしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの希望や思い、ペースを尊重して持続可能な生活を送れるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、食材購入や料理の準備、盛り付け、配膳、後片付け等職員と利用者が一緒になって行っている。また、職員も一緒に和やかに食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ゆっくりと入浴が楽しめるように一人ひとりの希望やタイミングに合わせて支援されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴が把握され、お茶だし、洗濯物干しや洗濯物たたみ、食材の買出しや調理など気晴らしの支援がされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な買い物や散歩、動物園や芝桜見物、ラーメンなどの外食や弁当持参での小学校の運動会見物など戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、鍵をかけないケアに取り組んでいる。また、利用者が外出する時は、職員が見守り安全面で配慮されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災避難訓練や救急救命訓練、津波による避難場所の退避などの訓練が実施されている。また、建物屋上にスピーカーが設置され、地域の人達に緊急時の応援の要請ができるように日ごろから取り組まれている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食の安全に取り組み生活クラブから調味料や有機栽培の食材の購入をしている。また、具体的な食事や水分の摂取量、栄養バランスなど一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1ユニットのホームの中に3ユニットがあるという考えのもとで設計された造りで、3名で1ユニット毎に中間領域が設けられて椅子やテーブルが配置され自由に過ごせる空間造りとなっている。また、土間では餅つきや洗濯物が干され利用者の年代に合わせた構造となっている。		特筆すべき点として、建物は、ワークショップに2年半を費やし、便座の高さやドアのノブにまで議論されつくした造りで、大学教授や同業者などに開放され研究や他施設の設計に活かされています。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族の写真や観葉植物が飾られたり、仏壇や使い慣れた家具などが持ち込まれ安心して過ごせる場となっている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。